



合理的配慮とICT活用

広島大学学術院
氏間 和仁

A 3D illustration in a dark, monochromatic style. On the left, a stylized human figure in a wheelchair is positioned at the bottom of a set of three steps, unable to reach the top. To the left of the steps, a walking figure is shown. On the right, the same wheelchair figure is shown on a flat surface, having bypassed the steps. The background is a simple gradient, and the overall theme is about overcoming physical barriers to achieve equality.

配慮の不平等を取り除こう

医学モデルと社会モデル

みなさんは
駅を利用するとき
駅の利用が困難になるような
事態に遭遇したことはありますか？

「駅で考える」

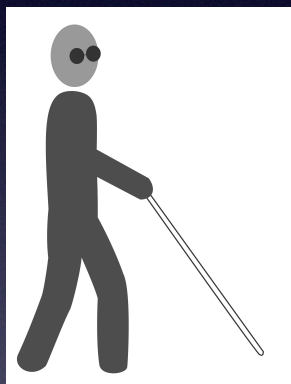


健常者

(心身機能が平均的な人)

配慮を必要としない人

一人で階段を見つけて
階段を自力で登ることができる。



視覚障害のある人

配慮を必要とする人

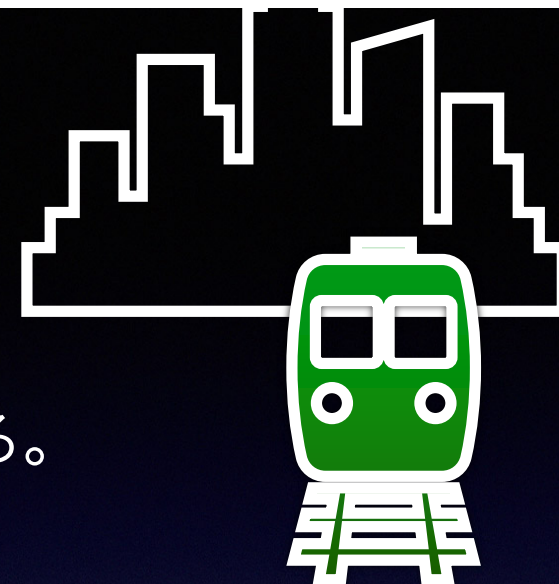
階段を発見することが困難
階段を自力で登ることができる。



肢体不自由のある人

配慮を必要とする人

階段を見つけられるが、
階段を登ることは困難である。



「個人モデル」 (医学モデル)

(WHO, 1980)

ICIDH (国際障害分類) 障害構造モデル

(International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps)

ICIDH was first published in 1980 by World Health Organization (WHO)



ICIDH（国際障害分類） 障害構造モデル

(International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps)

の成果と限界（徳永, 2005）

1 成果

障害を多面的，構造底に理解する視点を示した。

それに基づく施策が展開された。

2 課題

（１）環境定要素が含まれておらず，個人の中で完結している。

（２）構成要素間の関連が十分でない。

「駅で考える」



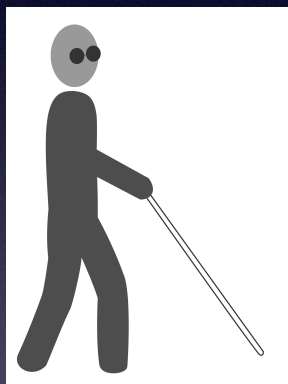
健全者

(心身機能が平均的な人)

配慮を必要としない人

一人で階段を見つけて

階段を自力で登ることができる。



視覚障害のある人

配慮を必要としない人

駅の階段に音サインを付ける

階段の登り口，降り口を発見できる。

階段を自力で登ることができる。

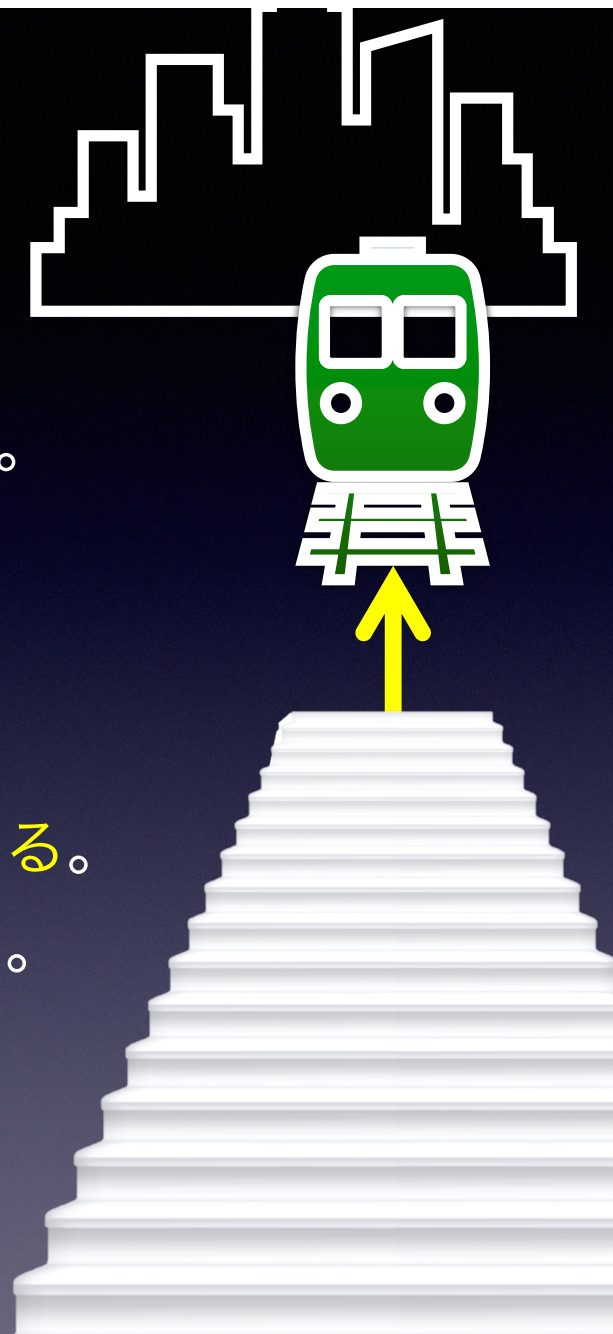


肢体不自由のある人

配慮を必要としない人

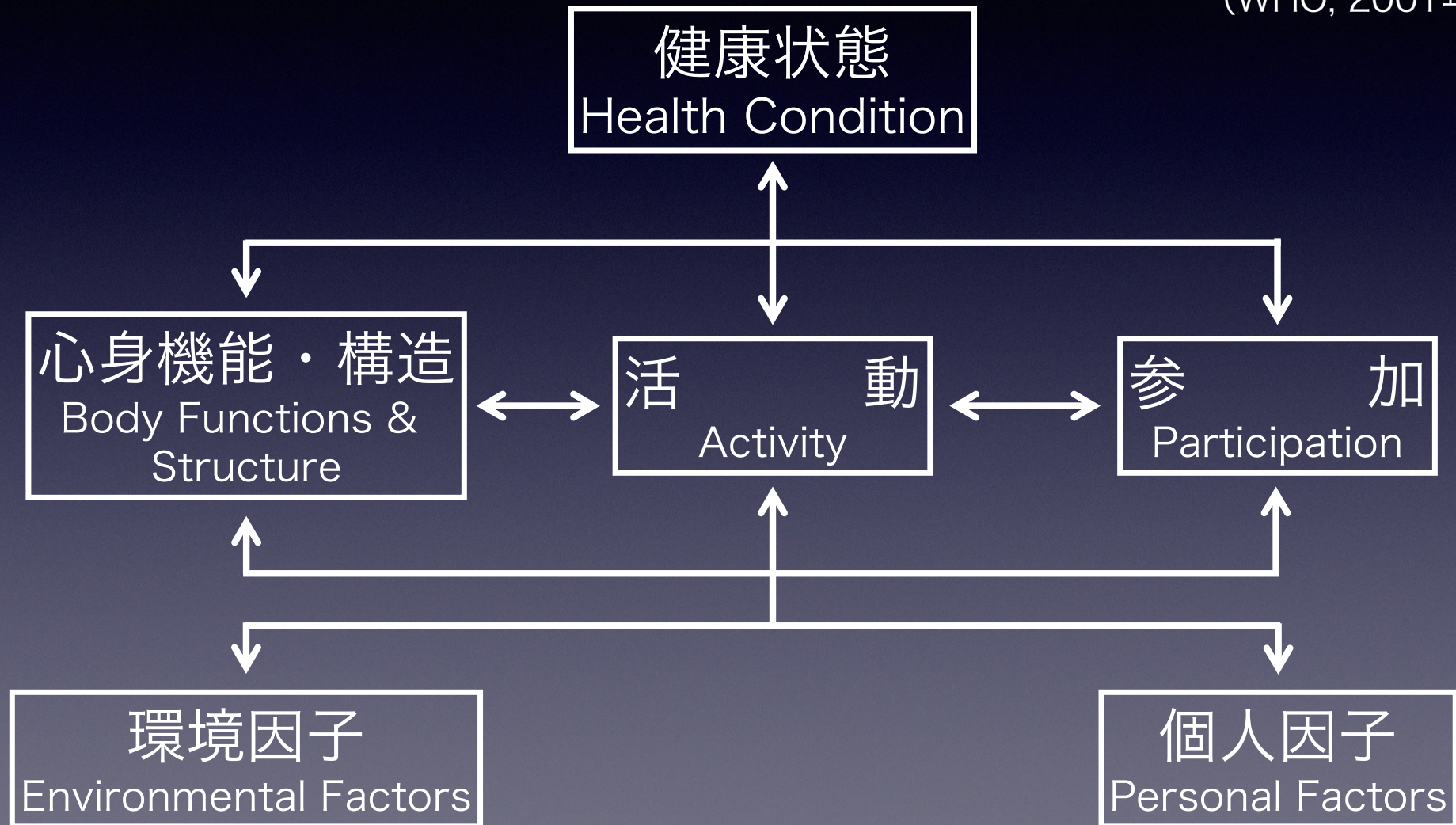
エレベーターを見つけられる，

エレベーターで昇降する。



「個人モデル」から「社会モデル」へ

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類)
(WHO, 2001年5月)



「医学モデル」

と

「社会モデル」

ICFによる統合した見方の提供

生物学的、個人的、社会的観点における、健康に
関する異なる観点の首尾一貫した見方の提供

ご清聴ありがとうございました。



広島大学
氏間研究室

uji-office@hiroshima-u.ac.jp